

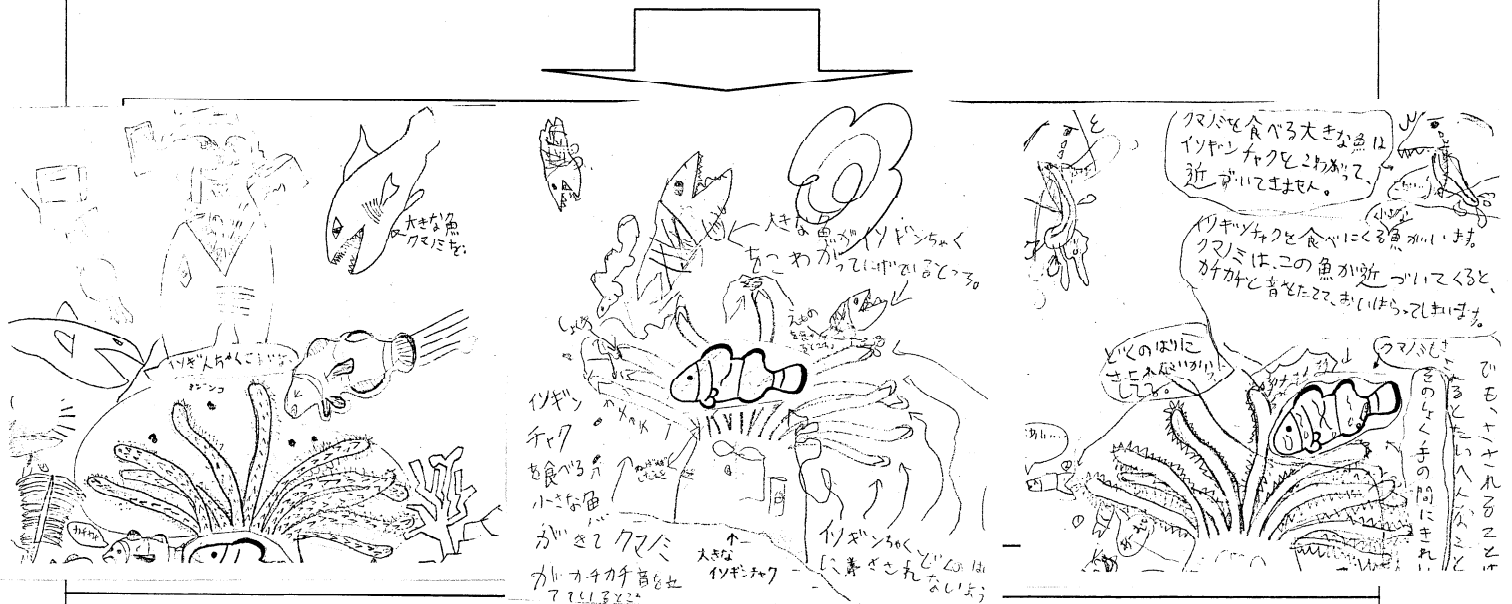
【報告者】秋野 麻衣

【学年】 2年 【教科・単元名など】国語科 だいじなところに気をつけて読もう
「サンゴの海の生きものたち」

【実践内容】

○教材文から読み取ったことを、絵と言葉で書き表す活動を通して、イソギンチャクとクマノミの体の特徴と、かかわり合いを読み取る。

- ・細長いたくさんのしょく手をゆらゆらさせている。
- ・しょく手の間に、きれいなオレンジ色の魚がうかんでいる。それがクマノミ。
- ・イソギンチャクのしょく手には、どくのはりがある。これで、小さなどうぶつをつかまえて、食べている。
- ・クマノミもさされるとたいへんなことになるが、体がねばねばしたえきでおおわれているのでさされることはない。
- ・クマノミを食べる大きな魚は、イソギンチャクをこわがって、近付いてこないため、クマノミはイソギンチャクの中に入れば安全。
- ・クマノミは、イソギンチャクを食べにくる小さな魚をカチカチという音でおいはらう。
- ・こうして、イソギンチャクとクマノミはたがいにより合っている。



【反省】

今回、この実践に入る前に、「鳥のちえ」という1年生向けの教材を使って、文章から読み取ったことを絵と言葉で表す練習をした。その時は割とどの子も文章で読み取ったことを絵と言葉で表すことができていた。しかし、いざこの教材文でこの実践を行ってみると、文が複雑になったせいかなかなかどう書いてよいのか分からずに困っている子がたくさんいた。周りの子を見たり、発表を聞いたりしているうちに「こう書けばよいのか」というつぶやきが増えたことから、はじめの説明をもっと明確にしたり、はじめのいくつかを全体で一緒にやってあげるべきであったと思った。また、発表のときに順序が複雑になってしまい、話し合いが前後してしまったので、順序通りに発表させる工夫も必要であった。